

【参考文けんについて】

作品を作るために調べた本や、引用のために使った本は、必ず記録して作品の最後につけます。

この記録したリストを”参考文けん”と呼んでいます。

以下の記入例を参考に、調べた本・ホームページ・新聞の記録をとりましょう！

①本を使って調べた時の例

No.	本の名前	本を書いた人の名前	出版社名	出版年	ページ	図書館名	ラベルの番号
1	本で調べて報告しよう	赤木かん子/著 mitty/絵	ポプラ社	2011年	7ページ	会津図書館	015/ア

※図書館名とラベルの番号：図書館から借りた本の場合に書きます。自分の本の場合は、そう書いてください。

②ホームページ(Webページ)を使って調べた時の例

No.	作った人・団体名	Webページ名	Webサイト名	Webページのアドレス	ページの最終更新日	アクセスした日
1	会津若松市	市の紹介	会津若松市 ホームページ	http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/bunya/shinoshokai/	平成28年 2月22日	平成28年 3月13日

※アクセスした日：自分がWebページを見た日です。インターネットの内ようは、いつでも書きかえることができるため、自分がいつの時点の内ようを調べたのか、記録することが大切です。

③新聞を使って調べた時の例

No.	新聞記事名	記事を書いた人の名前	新聞紙名	出版年月日	朝夕刊 (あれば)	ページ
1	みんなく世界の旅	三尾稔/著	毎日小学生新聞	2014年5月31日		3ページ

【引用について】

まとめを書く時、ほかの人の言葉や文章、図などを使って、自分の意見や調べたことの正しさを伝える方法として、“引用”があります。

引用する言葉や図などは、自分の著作物ではありません。

なので、言葉や文章を引用するときは、必ず自分の言葉や考えと分け、「」や””などで引用部分が分かるようにします。

また、どの本や新聞などから文章や図をもってきたのかも、分かるようにしなければなりません。

引用をしたい時は、以下の記入例を参考にして書いてみましょう！

①引用した文や図に番号をふり、ページの下部分に本のタイトルや作者名などをまとめて書く

【文章】

会津若松とよばれるようになった理由については、「（引用した文章）」(1)という説と、「（引用した文章）」(2)という説がある。

(ページの下部分)

- (1)若松歴男, 会津の歴史, 会津出版, 1998年2月, P.10
- (2)会津太郎, 会津若松市のすべて, 会津出版, 2010年3月, P.3
- (3)会津太郎, 会津若松市のすべて, 会津出版, 2010年3月, P.45

【図】



「（引用した図の名前）」(3)

②引用した文の後ろや図の近くに、本のタイトルや作者名などを書く

【文章】

会津若松とよばれるようになった理由については、「（引用した文）」(若松歴男, 会津の歴史, 会津出版, 1998年2月, P.10)という説と、「（引用した文）」(会津太郎, 会津若松市のすべて, 会津出版, 2010年3月, P.3)という説がある。

【図】



(会津太郎, 会津若松市のすべて, 会津出版, 2010年3月, P.45)

※このように書いた場合も、参考文献リストは必ず記入して、作品に付けてください。

※参考文献リストを書く時、わからない漢字も出来るだけそのまま書いてみましょう。どうしてもむずかしい時は、ひらがなで書きましょう。

